



いなばせいいちろう
稲葉誠一郎
誠友会
(90分)

平成30年7月豪雨災害への対応は

問

①本市が行う災害復旧工事の進捗状況は。
②国・県・市で実施している浸水対策の現状は。

答

①土木施設や農用施設等の災害復旧工事は1583件あり本年8月末時点では1380件が



ひらまつ
平松 正人
誠友会
(60分)

学区自主防災組織の活動は

問

避難場所を開設する時の市との初動連携は。

答

本市と自主防災組織との間に昨年11月にホットラインを開設し、市への開設連絡や、気象情報の提供、要望の受け付けなど、連携体制を構築した。

契約済みで残りの203件は発注準備中である。全体の78.9%に当たる1249件が完成済みである。
②国は芦田川と高屋川に危機管理型水位計15カ所の設置等を行い、

県は21河川の河道掘削等を実施している。本市も河川等の土砂撤去や排水機場への防水施設の設置のほか、手城川流域の雨水幹線とポンプ場をはじめ排水機等の設計を行うなど、それぞれが「福山市域における浸水対策協議会」で取りまとめた内容に基づき着実に取り組んでいる。おおむね5年間で抜本的な浸水対策に取り組み。

福山城跡保存活用現状は

問

①石垣整備の進捗状況は。
②福山城天守外観を築城時の姿に一部復元するが、その具体は。

答

①基礎データ収集のため発掘調査を行っており、今年度は神辺一番櫓周辺を調査する予定で、今後、調査結果等を踏まえ整備計画を策定する。
②北側の鉄板張りや、格子の色を黒色に復元するなど、できる限り往時の姿に近づけていきたいと考えている。



いけがみ
池上 文夫
市民連合
(75分)

認知症・地域ケア相談医制度の導入は

問

会派で視察した富山県高岡市は、市医師会の協力を得て圏域ごとに認知症・地域ケア相談医を配置し、在宅支援体制を強化している。相談医と地域包括支援センターとの連携も密にされ、認知症対策に効果を上げ



にしもと
西本 章
市民連合
(75分)

外国籍市民対応を考えた案内表示等の在り方は

問

外国籍市民が多くなる中庁舎の案内表示等の多言語化が必要では。また、相談窓口等意思疎通を図り、共通理解を得るため、翻訳機導入の検討を。

答

現在、庁舎等でローマ字や英語で表記している例はあるが、

ていた。こうした相談医制度の本市への導入の考えは。

答

本市では、地域包括支援センターが、医療・介護専門職等の参加する「地域ケア会議」で個別事例の支援内容等を検討している。

また、地域の認知症医療で中核的な役割を持つ認知症疾患医療センターでは、認知症サポート医やオレンジドクター等の医療・介護関係者の連携を図っている。これらの体制は高岡市の制度と同様の役割を担うもので、地域支援の充実強化に努める。

庁舎の案内板や庁舎以外の公共施設の多くに多言語での表示はない。早急に多言語表示の基準を策定して、まずは公共施設から対応し外国籍市民の利用が見込まれる民間施設にも協力を要請する。

また、本市の相談窓口では現在英語、中国語、スペイン語、ポルトガル語の4カ国語に対応しているが、在住者が多いベトナム語をはじめ、さらなる多言語対応が必要と考えている。翻訳機導入は有効な手段であり、今年度、翻訳アプリを搭載したタブレット端末を導入する予定である。

※認知症サポート医：かかりつけ医への認知症の診療等に対する助言や支援を行うとともに、専門医療機関や地域包括支援センターとの連携の推進役となる医師のことで、3月末時点の本市の人数は43名。

※オレンジドクター：日頃受診するかかりつけ医に気軽に認知症の相談ができるよう、「もの忘れ・認知症相談医」として広島県が認定した医師のことで、3月末時点の本市の人数は145名。